

に感動体験を! 只見町の素晴らしさ



応援します

農家民泊

「農家民泊」（略して、農泊）とは、農家に泊まり農業体験や自炊体験などの体験活動をすることをいいます。農家の方の普段の生活を体験してもらいます。食事は農家が提供するのではなく、子どもと一緒に作ります。農家民泊に取り組むための具体的な手続きなどの支援（参加するには簡易宿所の許可が必要となります）、受入れの相談については、平成19年12月に発足した、只見町子ども農家体験協議会（只見町観光まちづくり協議会が事務局）が行っています。只見町子ども農家体験協議会は、子ども農山漁村交流プロジェクトのみならず、中学生・高校生を含めた広い意味での持続性のある教育旅行を目指しています。農泊に関心のある方は、お気軽にお問い合わせください。

▼只見町子ども農家体験協議会
【只見町観光まちづくり協会】
☎024118215250

「とても良い 思い出となった」 受入れ農家の声

東京都江戸川区上一色中学校の生徒、145名を農泊で受入れました。受入農家数42軒、平成21年7月30日〜31日に実施しました。受入れ農家の声を一部ご紹介いたします。



▼考えていたより楽でした。とても素直で野菜も喜んで食べてくれました。学校のことや家庭のことなども話してくれました。自分の子どもが帰ってきたように楽しい民泊でした。お礼のはがきにもそば打ち体験など楽しかったと書いてあり、とても良い思い出ができました。時間があつというまでもう少し時間に余裕があればと思いました。

▼思っていた以上に子ども達が感動する様子を見て、私も感動させられた。小食と言っていた子ども達がたくさん食べるので驚いた。

▼農業体験にも興味や関心もあ

り様々な作業にすずんで取り組んでくれました。都会育ちの子ども達には、すべてがもの珍しく感動することばかりだったと思います。又、いつか来たいと感想を残して別れていきました。が、このあとも何か交流できることがあれば地域と都市の真のつながりができるのではないのでしょうか。

▼都会の子ども達にとって、有意義で貴重な体験だったと思います。受入れた私たちも満足げに「今度また来ます!」といった言葉の中にも感じます。田舎の人の心のあたたかさ、人のふれあいがこれからの教育に必要であると強く感じました。



農家民泊で子どもたち 子どもたちを通してわかる

学ぶ意欲や自立心、思いやりの心、規範意識などを育み、力強い子どもの成長を支える教育活動として、小学校における農山漁村での長期体験活動を推進することを基本方針としています。数年後には、全国2万3千校（1学年120万人）の子どもたちが農家体験を行うことを目標としており、受入地域（モデル地域）に支援措置がなされています。現在全国にモデル地域は、先導型受入モデル地域が

16箇所、体制整備型受入モデル地域には74箇所が認定されています。只見町子ども農家体験協議会は平成21年度に体制整備型受入モデル地域に認定されており、国や県より支援を受けながら受入体制づくりを行っているところとです。福島県のモデル地域は、喜多方市・南会津町・福島市・只見町の4地域です。今後更新手続きを行い、認定を継続していく予定です。

子ども農山漁村交流プロジェクト事業 (総務省・文部科学省・農林水産省の3省一体)



これからの 農泊予定

〔平成22年度予定〕

▼千葉県柏市高柳中学校
生徒数191名

6月2日(水)～3日(木)

▼千葉県野田市北部中学校
生徒数128名

6月24日(木)～25日(金)

▼東京都江戸川区立篠崎中学校
生徒数160名

7月23日(金)～24日(土)

▼新潟県内小学校
生徒数85名

9月1日(水)～2日(木)

〔平成23年度予定〕

▼千葉県市川市大洲中学校
生徒数101名

5月31日～6月2日(農家1泊・季の郷湯ら里1泊)

▼千葉県内中学校
生徒数200名

5月1日～2日

▼千葉県内中学校
生徒数210名

5月15日～16日

只見町には、現在の子ども達に必要とされる農家体験ができる農家が42軒、簡易宿所登録されており、子ども農家体験協議会では只今、登録農家を募集中です。

只見町子ども農家体験協議会

(敬称略)

会 長	新 国 秀 一	農家台帳登録民宿・旅館 代表 ゆの宿松屋
副 会 長	五十嵐 博 之	NPO法人 只見ぶなの木倶楽部
	菅 家 和 人	只見町旅館業組合 代表 ますや旅館
	長谷部 浩 司	会津ただみ振興公社
	斎 藤 政 信	森林の分校ふざわ
	目 黒 典 子	只見町観光まちづくり協会事務局
	山 内 清 示	只見町産業振興課長